

青谷高等学校の活性化について(案)

1 現状

市町村合併後、少子高齢化の進行が著しい青谷地域において、今後の地域活性化の観点からも青谷高等学校は不可欠である。現在は、行政と地域が一体となって支える体制をつくり、特色や魅力のある学校を目指し、様々な取り組みを行っている。しかし、平成28年度の入学者数は、定員の半数に満たない状況となっている。地域の学校として魅力をアップする取り組みを強化し、入学者が増加するような施策が求められている。

2 入学者減少の要因

人口減少に伴う中学校卒業生の減少	<ul style="list-style-type: none">・気高、鹿野、青谷地域の中学校卒業対象者の減少（15才） H17.3末 266人 ⇒ H28.3末 168人・市町村合併後10年、青谷地域0～14歳の人口の大幅な減少 H16 977人 ⇒ H26 564人 ▲42.2%
私立高校の台頭 (高校経営)	<ul style="list-style-type: none">・特色ある教育内容（進学、スポーツに特化）・多様な入試形態（入試科目数の減）・特待生制度・通学バス送迎（自宅近くで乗車できる）・中高一貫教育・県外大学入学保障（推薦入学先の確保）・学校施設の充実（学生寮完備）・保護者の意識変化（私立高校に対するイメージアップ：全国大会出場、有名大学等進学の増加）
立地条件	<ul style="list-style-type: none">・平成11年度から全県一区となり地域以外の高校に入学できる（来やすい⇒出やすい）・鳥取駅から遠い（岩美高校の方がJRの出発時間が遅い）・コンビニがない（学食がないので、弁当等が買えない）
学校のイメージ	<ul style="list-style-type: none">・荒れた高校（過去のイメージ）・高校が廃止されるといった噂（保護者の不安）・総合学科がよくわからない（学科のメリットのPR不足）

3 入学者増加の対策

教育内容の充実・開発	学力向上、進路実現 生徒一人ひとりが進路希望を実現させるための進路指導と学力の定着
	青谷高校独自の教育内容の開発 <ul style="list-style-type: none">・「青谷学」を通した課題解決型学習・上級学校との授業連携・マリンスポーツの実施
	地道な教育活動 <ul style="list-style-type: none">・本物に触れる教育・効果的な教育ツールの活用

施設整備	食堂の設置（同窓会館の改築）
県外募集	部活動の精選、活性化 (県外生徒の居住が課題)
情報発信	・SNSの活用 ・学校HPの充実

4 青谷高校魅力化コーディネーター（仮称）の設置について

鳥取市西部地域唯一の高校である青谷高等学校が、地域資源(自然・文化・人・施設など)を活用しながら特色のある教育活動を展開し、地域とともに発展するため、学校・地域・行政をコーディネートする「青谷高校活性化コーディネーター」を設置する。

主な役割（例）

外部への情報発信に積極的に取り組んでいくとともに、青谷高等学校が取組む特色ある教育活動の支援を行う。

①情報発信

- ・HP管理、広報作成、学校案内
- ②地域資源を活かした教育活動の支援
 - ・青谷学の授業のコーディネート
 - ・地域課題等の探究活動のコーディネート

③学校と地域の連携

- ・高校生の地域イベントの企画と参画
- ・高校生とOBによる卓球教室の開催

④就職、進路担当教員への支援

- ・インターンシップの計画
- ・アドバイス

設置期間及び勤務地

平成29年6月から3年間

本務地は青谷町総合支所だが、勤務の主体は青谷高等学校となる。

5 他校の状況について

学校に対する支援として、地域おこし協力隊を設置

日野2人、岩美2人、智頭農林2名、村岡1名

6 その他

平成30年＝創立70周年